

平和について考える

金武小学校 五年

安次富 倫

「平和とは何だろう。平和な社会とは、どんな社会なのだろう。」私が住む沖縄が日本に返された五月十五日、先生の話を聞いて私は考えました。私が出した答えは、

「平和とは戦争のない、どの国とも助け合い協力し合う社会、そして世界。」ということ。国と国とが手を取り合って協力しあう世界が平和だと私は考えます。

では、今の世の中は平和なのかどうか。私は平和だと答えることがむずかしいように思いました。それは、私たちの国、日本を例にとって考えてみるの答えです。私の知る限り今、日本は戦争はしていません。憲法という国の決まりの本の中に、戦争してはいけないと書かれているそうです。しかし、すべての国と協力したり、仲良くしたりしているわけではありません。領土問題でいみあっている国もあるし、日本人のことを良く思わない国があつて、そこでは日本人や日本企業が狙われることもあると、ニュースで知りました。

日本以外の国では、戦争をしたり、いがいあつて、いつ戦争が始まってもおかしくないような国もあります。ムダな争いをしているように私は感じて、悲しい気持ちになります。私のおばあちゃんが子どもだったころ、沖縄でも戦争があつたということを私はよく知っています。戦争中は、アメリカ軍の飛行機からばくだんが落とされたり、上陸してきたアメリカ兵から逃げ回ったりして、大変な思いをしてきたのだということを授業で学習しました。また、当時の沖縄は食料がなく、生き残った人たちもまずしい生活をしないでならなかったという悲しい過去があることも、テレビや新聞で見たり聞いたりして知っています。戦争が終わって六十一年以上たつのに、不発だんのせいで、今でも苦しんでいる人がいることも、私は学習しました。戦争は、戦っている最中だけが苦しいのではなく、その後何年にもわたって人々を苦しめるものだけ

うことを私はこれまでに学んできました。だからこそ、平和な世の中が大事であることを私は強く感じています。六月二十三日のいいの日にも私は平和の大切さを強く感じています。それは、戦争で亡くなった人たちにウーソーをしながら感じているのです。

平和祈念公園の平和の礎に書かれている戦ぼつ者の数は二十四万三千二百二十二名だそうです。その人たちがやすらかに眠ってほしい。そして戦争のない今の沖縄を見守っていてほしいと願いながら、私はウーソーをしています。きっと、天国から、

「沖縄や日本だけではなく、世界中が平和になってほしい。世界中から戦争がなくなつてほしい。」

とのぞんでいることでしょう。戦争で苦しい思いをしてきた沖縄の人だからこそ、平和の大切さを強く感じ、平和な社会、世界にしたいという気持ちがあるのだと思います。戦争を知らない私たちも、戦争を体験したおじいちゃんおばあちゃん達から、そのときの様子、思いを聞いて、同じように平和を望むようになったのだと思います。つらい思いをした沖縄だからこそ、

「戦争のない、どの国とも助け合い協力し合う社会、そして世界にしよう。」と呼びかけることができると私は思います。

平和な社会、世界になるために、私にできること、それは、まずしい国に住み苦しんでいる人たちに自分のお小づかいから募金をすることです。また、水や食べ物をそまつにすることなく、感謝の気持ちをもって食べることに、動物や植物も一緒に気持ちよく生きていける環境について考えることです。小さなことかもしれませんが、私はそれが世界の平和につながるかと信じて、行動していこうと思います。